

**令和3年度**

**第14回新川和江賞**

**～未来をひらく詩のコンクール～**

**表 彰 式**

**日時:令和4年2月13日(日)午後2時**  
**場 所:結城市民情報センター 多目的ホール**  
**主 催:結城市・結城市教育委員会**  
**(公財)結城市文化・スポーツ振興事業団**

## ごあいさつ

結城市は、結城家18代の城下町として栄えるとともに、ユネスコ無形文化遺産「結城紬」で知られる歴史と文化のまちです。

この歴史と文化を継承していくのは、未来を担う子どもたちです。そうした結城の子どもたちの才能を発掘し、伸ばしていきたいという、名誉市民であり、ゆうき図書館の名誉館長でもある詩人・新川和江氏の想いが、結城市民情報センター・ゆうき図書館が開館5周年を迎えた平成20年度に、「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」という形で具現化されました。

このコンクールは、今年で第14回を迎えます。これまでに26,475点のご応募をいただき、毎年素晴らしい作品が数多く生まれてまいりました。詩の創作活動を通じて、本市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に貢献してまいりました。また、新たな才能を発掘することを目的とするという想いは、詩を愛する関係各位のご尽力により脈々と受け継がれております。

本年度も、1,989点という多くの作品をご応募いただきました。今回も感性豊かな秀作ぞろいで、受賞されました皆様に心よりお祝いを申し上げますとともに、入選を逃された皆様にも、詩への興味を持ち続けていただくことを期待しております。

私は、子どもたちが秘めている可能性を開花させ、世界に羽ばたく人材になってほしい、そして、そのきっかけをつくってあげたいと考えております。子どもたちが、ここ結城でのびのびと育ち、大人になっても、結城で過ごした日々を誇りに思う。そうあってほしいと願っております。

結びに、皆様が詩の創作活動を通じて、個性豊かな創造力を育み、豊かな心で毎日を過ごされますことを願い、ごあいさつといたします。

令和4年2月13日

結城市長 小林 栄

## ごあいさつ

結城市の小・中・高校の児童、生徒の皆さん、「第14回新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」に、たくさんの詩を応募してくださりましてありがとうございました。

今年も新型コロナという感染症で、多くの方が苦しみ、多くの方が不便な生活を送ってきましたが、皆さんの詩を読んでいますと、そのような苦しみ、不便さを元気いっぱい乗り越えようとする力がみなぎっていて、うれしくなりました。詩には、人生の悲しみ、苦しみを、喜びにかえていく力があるのですね。皆さんが、詩を書き終えたとき、あまり上手に書けなくても、どこか心が満ちたりたような思いがするの、詩の力なのですね。

皆さんの詩には、皆さんの毎日の生活がいっぱいつまっています。そこにはかわいい猫や犬の話、だんごむしやどじょう、アリやセミ、メダカや金魚や亀、そうそうウサギやカブトムシを忘れていました。ほかにももっとたくさんの生き物たちであふれています。そして、畑の野菜、野の花。さらに大切な人たち。お父さん、お母さん、兄弟、姉妹、おじいさん、おばあさん、さらにはひいおじいさん、そして学校のお友だち。サッカーや野球、水泳、演奏会。こうして上げてみると、それだけで毎日を充実して生きているという感じがしますね。みんなで心をかよいあわせて、喜んだり悲しんだり、腹を立てたり、いたわりあって生きている。

そして、高学年から中学生、高校生になっていくにつれて、詩の世界は、そのような日々の生活を深く考えていくようになりますね。いろいろな世の中の問題を取り上げて、大事な事に気づいていきますね。深く深く考えてください。

いま、皆さんの詩の原稿はファイルにとじられています。耳をすますと、そこから皆さんの元気な声がどっと聞こえてくるような気がします。とても勇気がわいてきます。皆さん、ほんとうにすてきな詩を読ませてくれてありがとうございます。これから、大人になっても詩を書きつづけてくださいね。

児童、生徒を詩の創作へお導きくださった先生方、この素晴らしい事業を推進されている市長はじめ関係者の皆様、第1次選考にたずさわってくださいました「センダンの木の集い」の関和代様、山中和江様。ありがとうございました。

令和4年2月13日

選考委員長 たけし 武子 かずゆき 和幸

## 次 第

日時 令和4年2月13日(日)  
午後2時  
場所 結城市民情報センター  
3F多目的ホール

### ●表彰式

- 1 開式のことば
- 2 主催者あいさつ
- 3 来賓あいさつ
- 4 表彰
- 5 第14回受賞作品朗読
- 6 選考委員長による講評
- 7 閉式のことば

優秀賞  
新川和江賞

## ●受賞者氏名

### ☆新川和江賞（最優秀賞）

|          |        |    |           |            |
|----------|--------|----|-----------|------------|
| おばあちゃんの庭 | 結城西小学校 | 6年 | とさか<br>登坂 | ゆうせい<br>悠生 |
|----------|--------|----|-----------|------------|

### ☆優秀賞

|        |        |    |             |    |
|--------|--------|----|-------------|----|
| わたしのまま | 結城西小学校 | 1年 | おおくほ<br>大久保 | ねね |
|--------|--------|----|-------------|----|

|       |       |    |             |           |
|-------|-------|----|-------------|-----------|
| びんラムネ | 結城小学校 | 3年 | わかばやし<br>若林 | あおい<br>葵陽 |
|-------|-------|----|-------------|-----------|

|     |       |    |            |           |
|-----|-------|----|------------|-----------|
| ナマズ | 山川小学校 | 3年 | つかごし<br>塚越 | あいる<br>愛琉 |
|-----|-------|----|------------|-----------|

|         |        |    |            |           |
|---------|--------|----|------------|-----------|
| ぼくのヒーロー | 上山川小学校 | 3年 | やまなか<br>山中 | きしん<br>喜心 |
|---------|--------|----|------------|-----------|

|        |       |    |            |           |
|--------|-------|----|------------|-----------|
| 心の中の部屋 | 城南小学校 | 4年 | ふるさわ<br>古澤 | しゅう<br>史悠 |
|--------|-------|----|------------|-----------|

|          |       |    |            |           |
|----------|-------|----|------------|-----------|
| ぼくのタブレット | 絹川小学校 | 4年 | さいとう<br>斉藤 | ひろと<br>寛人 |
|----------|-------|----|------------|-----------|

|    |        |    |            |           |
|----|--------|----|------------|-----------|
| 茶道 | 江川北小学校 | 4年 | おいぬま<br>生沼 | ゆうは<br>友羽 |
|----|--------|----|------------|-----------|

|      |        |    |           |          |
|------|--------|----|-----------|----------|
| 赤いくつ | 江川南小学校 | 4年 | すすき<br>鈴木 | あみ<br>杏実 |
|------|--------|----|-----------|----------|

|    |        |    |           |           |
|----|--------|----|-----------|-----------|
| 朝顔 | 結城南中学校 | 1年 | さとう<br>佐藤 | ひろと<br>紘人 |
|----|--------|----|-----------|-----------|

|          |        |    |              |            |
|----------|--------|----|--------------|------------|
| 外をながめる一匹 | 結城東中学校 | 1年 | あらかやま<br>阿良山 | めいな<br>芽衣夏 |
|----------|--------|----|--------------|------------|

|            |       |    |           |           |
|------------|-------|----|-----------|-----------|
| 世界は常に動いている | 結城中学校 | 3年 | つばい<br>坪井 | えいた<br>瑛大 |
|------------|-------|----|-----------|-----------|

|     |          |    |            |            |
|-----|----------|----|------------|------------|
| 生き物 | 結城第二高等学校 | 1年 | おちあい<br>落合 | まなみ<br>真菜美 |
|-----|----------|----|------------|------------|

☆優良賞

だんごむし だいすき

結城小学校 1年 わかばやし 若林 あいり 愛莉

自ぜんのあなあけパンチ

江川南小学校 3年 すすき 鈴木 りお 理央

ずんぐりむっくり

江川北小学校 1年 いわさき 岩崎 たくみ 匠

大きなアリ

結城小学校 4年 ふくしま 福島 はなえ 花瑛

どじょう

結城西小学校 1年 えのもと 榎本 しょうま 匠馬

うちの猫

絹川小学校 4年 はまの 濱野 りゅうのすけ 龍之介

ブランコ

上山川小学校 2年 すとう 須藤 かえで 楓

ぼくとエレクトーン

城南小学校 5年 いたばし 板橋 ともき 朋生

わたしのかぞくのこえびちゃん

山川小学校 2年 いのせ 猪野瀬 みあ 心彩

桜の木的一年

結城西小学校 5年 たかすぎ 高杉 ると 琉斗

ちょっと大人になったぼく

結城西小学校 2年 こしの 小篠 けいご 圭吾

空の顔

城西小学校 5年 くどう 工藤 あいり 愛梨

せみのぬけがら

城西小学校 2年 かきしま 笠島 たくあ 逞充

お母さんのオムライス

城西小学校 5年 さいとう 斎藤 ゆりか 百合花

スーパーマーケット

絹川小学校 3年 おおくほ 大久保 らいむ 来夢

少し前のこと

江川北小学校 6年 おがわ 小川 しんいち 真一

☆優良賞

昔と今の農業

江川南小学校 6年 <sup>なかやま</sup>中山 <sup>せいじ</sup>清司

お姉ちゃん

結城中学校 3年 <sup>りゅうどう</sup>龍道 <sup>ひなた</sup>妃菜

「県大会でホームランを打ったぼく」

結城西小学校 6年 <sup>ねもと</sup>根本 <sup>ゆうた</sup>悠汰

静寂

結城東中学校 3年 <sup>いしげ</sup>石毛 <sup>ひより</sup>陽和

曾祖父

城西小学校 6年 <sup>いしかわ</sup>石川 <sup>りん</sup>凜

君

結城東中学校 3年 <sup>はっとり</sup>服部 <sup>ののか</sup>希乃花

無人島

結城中学校 1年 <sup>だいこく</sup>大黒 <sup>あい</sup>藍

真っ黒な部屋

結城第二高等学校 1年 <sup>うえたけ</sup>植竹 <sup>ひな</sup>陽菜

我慢の大きさ

結城南中学校 1年 <sup>やまなか</sup>山中 <sup>ゆら</sup>結心

朝の声

結城第二高等学校 2年 <sup>ゆびくび</sup>指首 <sup>ゆうた</sup>雄太

感情はある

結城南中学校 1年 <sup>あべ</sup>阿部 <sup>せいこ</sup>聖子

気づき

鬼怒商業高等学校 3年 <sup>あおやぎ</sup>青柳 <sup>あやの</sup>彩乃

月の歯事情

結城中学校 2年 ファンティミ トウイン

感じたものが

鬼怒商業高等学校 3年 <sup>あくい</sup>阿久井 <sup>みづき</sup>美月

夢

結城東中学校 2年 <sup>あきもと</sup>秋元 <sup>もか</sup>萌花

ことばはいつ 詩となるのであろう  
猿に噛みくだかれた木の実は  
むろの中で年月を経て酒となるように  
夜ふけに草をしめらせたり露が  
あけがた葉末で玉となるように

新川 和子 2



## 新川和江賞

### おばあちゃんの庭

結城西小学校 六年 登坂 悠生

だれもないおばあちゃんの家  
庭にはたくさんの木や草花  
おばあちゃんが大切に育てていたものだ  
雑草が生え 木の枝がのびてしまったので  
お父さんとお母さんが手入れをする  
ほくも草むしりのお手伝い  
すると 足元にありの行列  
石のかげからあわてて走り出すカナヘビ  
草むらからピョンととび出して来たバッタ  
花だんのすみにはアサガオの芽  
一年生の時 おばあちゃんにあげた種から  
毎年花をさかせているアサガオだ  
たくさん生き物たち  
たくさん植物たち  
だれもないおばあちゃんの家  
でもその庭で  
生き物たちは命をつないでいる  
少しきれいになった庭を見て  
おばあちゃんが  
優しく笑ってくれたように感じた

### 短評 新川和江賞 「おばあちゃんの庭」

一行目を読んだとき、そこにはふかい悲しみが感じられて、おばあちゃんは亡くなったのだなと思いました。しかし、その悲しみをうめるように、草が生え、ありが行列をくみ、カナヘビがすばやく走り、バッタがピョンととびだし、なつかしいアサガオが芽をだしている。おばあちゃんを思い出して涙がでそうですね。おばあちゃんのない悲しい場所には、たくさん生き物や植物が元氣いっぱい生きていて、生命に満ちあふれている。おばあちゃん笑顔のように。そのとき悠生さんは、何を感じたのでしょうか。だれか亡くなっても、たくさん生き物がその生まれかわりのように命をつないでいる。それだけで終わりはしないのだよと、おばあちゃんが教えてくれたように感じたのかもしれない。とても心にひびきました。

## 優秀賞

### わたしのママ

結城西小学校 一年 大久保 ねね

わたしのママは、わたしがちいさいときから  
いじめ

「やね。いじいね、やね」

とずっといじめた。

さいきは、おかしもあまりたべなくなっ  
て、おうちでうんどうをしています。

「やっだー。やせだー」

とよくさいきはよろこんでいます。

ママは、やせてかわいくなりました。

ははははええええとママにやさしくな  
りました。ママは、おりょうりもじょうずにな

りました。まあのおいらなくなりました。

わたしは、ずっとなかよしのはははとママで  
いてほしいなあとおもいました。

だから、ママ、もどらないでね

### 短評 優秀賞「わたしのママ」

ねねさんは、おかさんがだいすきなんだね。おかさんが、やせ  
よう、やせようとかんばるすがたを、いつもやさしい目で、みつめて  
いた。おかさんが、やせてかわいくなったと、羨、うねしかったで  
しょ。ははは、おかさんの「ママええええ」とも、やさしくなるとい  
うことが、ほんとうは、やせているともうなへなへでも、ずっとママ  
のそばにいたいよ。ねねさんにも、ねねさん、ママ、ママ、ママ、  
のそばにいたいよ。

## 優秀賞

### びんラムネ

結城小学校 三年 若林 葵陽

まほうのかぎで

ビー玉のドアを開けよう

さあ いきを止めて

心の中で数えるよ

いち このさん

しゅわつとおしよせるなみ

わくわくするね とびこんじゃおう

キラキラの世界

あわのシャボン玉このって

ゆらゆら おさんぽ

ふわふわ お風ね

あわをけったら ぶんぶん泳げる

イルカみたいに シャンプでもできるよ

しゅわしゅわ あまくて すっぱい

なんでだろう 元気が出ちゃう

またのもうね

夏のびんラムネ

### 短評 優秀賞「びんラムネ」

ラムネのびんのガラス玉を、ぐいとおして、ラムネがしゅわつとぶきたすとき、こころがわくわくしますね。葵陽さんは、そのときの気持を、へやのドアをぱつと開けて、見しらぬ世界にとびだすときのように感じているのですね。そこがとてもすばらしい。

ドアを開けると、うみがひろがっていて、おしよせるつめたいキラキラのあわのなみ。ラムネがぶきたすときのさわやかな感じを、そのように書けるなんてすごいな。ほんとうにすごい。読んでいるわたしたちまで元気な気持ちになりますよ。

## 優秀賞

### ナマズ

山川小学校 三年 塚越 愛琉

つるつるしてるカラダ  
ぷにぷにしてるおなか  
えさの近くだとおひげが動く  
えさを食べると丸っこくなる  
口もとが笑ってるみたい  
どれもがかわいくて  
どれもがあいらしくて  
だいすきなナマズ  
筒の中を通って  
いっしょにあそんでみたいな  
ぼくもおなかもぽっこりだから  
ナマズみたい  
にているからよけいにすきなのかな  
そんな事を考えながら  
ぼくの口元もにんまりしてました

### 短評 優秀賞「ナマズ」

愛琉さんは、ナマズがだいすきなんだね。手でさわるだけでなく、目でみたり、においをかいだりして、ちゅういぶかくナマズをかんさつして、体じゅうで、ナマズを感じているのですね。そこがすごいな。だからつるつるして、ぷにゅぷにゅしている体の感じや、おひげが動いたり、笑っているような口元の感じが、目に見えるように書けるんだ。愛琉さんとナマズさんが兄弟みたいだ。ナマズのようににんまりした愛琉さんの口元ってかわいいな。見てみたい。

## 優秀賞

### ぼくのヒーロー

上山川小学校 三年 山中 喜心

ぼくはおじいちゃんが大好きだ  
ぼくのおじいちゃんはたくさん顔をもち  
パワフルおじいちゃんだ  
作ぎよう着すがたのおじいちゃん  
あつい日もさむい日もヘルメットに長ぐつ  
ドロだらけになってはたらくおじいちゃん  
大きなユニボにのってるすがたはカッコイイ  
休みの日になるとレーザーにへんしんする  
サーキットへ向かうおじいちゃんのせなかは  
ピカピカがやき メラメラもえている  
レースカーのハンドルにぎるおじいちゃんは  
だれよりもカッコイイ  
お仕事もレースも何もない日は  
かならずぼくと遊んでくれるおじいちゃん  
大きな手で 大きな手で ぼくをつつみこむ  
いつもぼくのミカタでいてくれてありがとう  
今日も明日も、毎日パワフルおじいちゃん  
もっともっと、ずっと長生きしてほしいな

### 短評 優秀賞「ぼくのヒーロー」

喜心さんのおじいちゃんてすごいね。げんきいっぱい。パワーぜん  
かい。作ぎよう着をきて、ヘルメットに長ぐつをはいて、ユニボをそ  
うじゅうしているたくましいすがたは、ほんとうにかっこいいね。お  
まけにレーザー。サーキットに向かう背中が、ピカピカ、メラメラも  
えてるなんて、ただかうおじいちゃん。喜心さんは、あこがれのまな  
びで、うっとりみおくるのでしょね。そのようなヒーローがミカ  
タで、いっしょにあそべるなんてうらやましいな。喜心さんも、いつ  
もおじいちゃんのようにげんきいっぱいなのだよ。うううね。

## 優秀賞

### 心の中の部屋

城南小学校 四年 古澤 史悠

ぼくの中の心にはお気に入りの部屋がある

「二つ目の部屋はとても広い部屋」おはよう

とドアを開けるとぼくはだれかに話をしたくなる

他の人の話を聞くことができる

ほっぺが上がって歯が見える顔になる

「二つ目の部屋は天井の高い部屋」こんにちは

とドアを開けるとぼくは力いっぱい何かをしたくなる

その事に集中することができる

ちょっと目が上がって歯をくいしばった顔になる

三つ目の部屋はちやうど良い部屋「こんにちは」

とドアを開けるとぼくは大きく深くきゅうがしたくなる

今日したことを思い出すことができる

ゆっくりに目をこらして明日を待つ顔になる

ぼくの中の心の中ももっともお気に入りの部屋をふやして

てくれませんか

### 短評 優秀賞「心の中の部屋」

心の中には喜びや悲しみやいかりなどの感情やいろいろな考えが  
いっぱいあって、なにがなんだか分からなくなってしまうほど、とて  
もぶくぶくですね。それを、心の中に部屋を作って整理する。とても  
すてきな大発見ですよ。感心しました。一つ目は、たくさんのお友だ  
ちと理解しあって仲良くなるようにする心の部屋。二つ目は、がんばっ  
て力いっぱい生きようとする心の部屋。三つ目は、自分のしたこと  
静かに振り返って、しきの日に生かそうとする心の部屋。このように  
ぶくぶくした心を整理して自分を見つめることはわたがらの人生にと  
ても役立つことだと思います。

## 優秀賞

### ぼへのタブレット

絹川小学校 四年 斉藤 寛人

タブレット パカッ  
ワクワク ワクワク  
今日は なにをしようかな  
ぼくのゆめ ひろがる  
ひろがる

タブレットパカッ  
ソワソワ ソワソワ  
早く早く  
かきたいな  
ぼくだけの ペイント3D  
ぼくの絵 かける  
かける

タブレット パカッ  
サクサク サクサク  
できる できる  
ちよっとにがてな  
計算 漢字も  
わかる わかる  
うれしいな  
今日もタブレットパカッ

### 短評 優秀賞「ぼへのタブレット」

寛人さんは、学校の勉強でタブレットをつかっているのかな。すごいな。タブレットをひらくときパカッという気持ちのよい音がするのだね。やるぞという気持ちになるね。いい音だな。そこからいろいろなものがとびだしてきそうな音だ。だから、ワクワクソワソワなんだなあ。いいね。いろんなことができる。3Dの立体のお絵かきまでできるなんておどろきだ。計算も漢字もなんでも。パカッとひらくとほんとうに夢がひろがるね。やるぞやるぞという気持ちが、いきおいの良いいことばにのってあらわてきますよ。

## 優秀賞

### 茶道

江川北小学校 四年 生沼 友羽

おばあちゃんと茶道教室へいったよ  
着物を着た先生がいて、おもてなしの心や  
れいぎさほうなども教えてくれたよ  
たたみの部屋に入ったら正ぎをして、  
かけじくや生け花におじぎをするんだよ  
正ぎをしてせすじをピンとのびして  
大きなお茶わんをもって時計回りに2回ま  
わしてから  
ちよつとずつちよつとずつ飲んだよ  
ちよつとにがかったけど、甘いおまんじゅう  
をたべたらお口の中が幸せなんだあ  
「足がしびれてるのを忘れちゃうくらい楽しい  
時間だね。」「っておばあちゃんと言いながら  
お部屋じゅうにお茶のいい香りがしたよ  
みんなが笑顔になったよ  
大きくなったら私も着物を着てお茶がたて  
られるようになりたいな  
日本の文化っていいなあ

### 短評 「優秀賞」茶道

おばあちゃんと茶道教室で茶道を習ったことがとてもいいねいに書かれています。静かな茶室の様子やお茶をいただくときのおさほうや、そのときのぴんとはりつめたふんいきなどが、とてもよく伝わってきます。読みながら、わたしたちのせすじもピンとのびて、さわやかな気持ちになりましたよ。このようにしてむかしからの文化は、友羽さんやひとびとの生き方に、深く染みこんでいくのですね。楽しくて幸せな経験でしたね。



## 優秀賞

### 赤いくつ

江川南小学校 四年 鈴木 杏実

小さな赤いビロードのくつ  
おひめ様みたいに 大きなりボン  
星のように光っている三つの石がならんで  
いる わたしの大好きな赤いくつ  
わたしがよちよち歩き出した時に パパと  
ママが買ってくれた記ねんのくつ  
わたしが大きくなって今では出番がないけ  
れど げた箱のすみに静かにねむっている  
赤いくつ  
ときどき出してながめてみる  
こんなに小さかったのね  
わたしの大事な思い出のくつ  
今 八年のねむりをさまし  
明るい光りの中に動きだす  
歩きだした妹の小さな小さな足にはかれて  
おひめ様の赤いくつは まぶしそつに  
一歩一歩 歩きだす  
わたしをはじめて外につれていってくれた  
ように そして  
わたしの大好きな赤いくつは  
妹の宝ものになる

### 短評 優秀賞「赤いくつ」

杏実さんが、あかちゃんるときにはいた赤いビロードのなつかしい  
思い出のくつ。うす暗いげた箱のすみに静かにねむっていたのですが、  
妹がよちよち歩きはじめて、ついに順番が来ましたね。それにしても、  
くつさんが、〈ねむりをさまし〉明るい光りの中に動きだし、妹の  
小さな足をつつんでまぶしそつに「一歩一歩動いていくなんで、まるでお  
とき話の小さな妖精になって、妹に歩き方を教えているみたい。妹  
さんのうれしそうな笑顔が見えるようですよ。

## 優秀賞

### 朝顔

結城南中学校 一年 佐藤 紘人

僕は、五月に朝顔の苗を買った。これからプランターに土を入れて苗を育てよう。

顔が自然と笑顔になる

きつと毎日の水やりを楽しみに思うから僕は、プランターの前に支柱を立てる。

その後支柱にネットも付けよう

外の空気がだんだん夏に近づいて来た。

顔が自然と笑顔になる。

あさがおのつるがネットにからんでいくのを楽しみにしているから。

僕は、毎日の水やりを一日二回している。

これから朝顔のつるを誘引して

重なり合わないように振り分けよう。

顔が自然と笑顔になる。

きつとつるが僕の身長を抜くのを

楽しみにしているから。

僕は、小さいシヨベルでプランターの土を掘っている。

つるが伸び葉がたくさん出て、土に追肥が

必要になったからだ。

顔が自然と笑顔になる。

つぼみが出来てもうすぐ花が咲くからだ。

僕は、紫色の花がたくさん咲いているあさが

おの前に汗だくで立っている。

真夏の暑さで葉がしおれている。

顔が自然と笑顔になる  
緑のカーテンとなり夏の強い日差しをさえぎってくれるから。

僕は、朝顔の支柱の片付けをしている。

だいぶ涼しくなりもう秋かと思うから。

枝を少し残し、その上にビニールをかけ

防寒対策をしよう。

顔が自然と笑顔になる。

きつと来年にはこの枝からまたつるが伸びていくのを楽しみにしているから。

### 短評 優秀賞「朝顔」

朝顔の苗を買って、プランターに植えてといった作業を、時間を追って、ていねいに書いていきます。やがて、季節が進み、自然の大きな力の働きで、つるが伸び、花が咲き、実がなります。それは、朝顔の時間が充実し豊かになっていくことですね。その充実した時間は、詩の中に何回も繰り返される「顔が自然と笑顔になる」という詩行からにじみ出てきます。このようにこの詩は、単に朝顔を育てるお話だけではなく、その作業を通して、とんとん豊かになっていく自然の時間、人間の充実した心を書いているのですね。

## 優秀賞

### 外をながめる一匹

結城東中学校 一年 阿良山 芽衣夏

ふーちゃんはいつも外をながめていた  
私はどこをながめているのか気になった  
だからいつしょに外をながめてみた  
ふーちゃんと同じ目の高さにしてみた  
ふーちゃんと同じ所をながめてみた  
だけどふーちゃんはなにもないところを  
ながめていた  
鳥も虫もおもしろいことも  
なーんにもないところを  
私は何か考えているのかもと思った  
もしかしたら、今日ご飯の味について  
もしかしたら、家族のことについて  
私はこのことをお母さんに話した  
けど、何も考えてないよっていわれた  
私はふーちゃんに聞いた  
今日はどんなことを考えてたのって聞いた  
そしたらふーちゃんは  
「ニャー」と鳴いた

### 短評 優秀賞「外をながめる一匹」

お母さんは、猫のふーちゃんは何も考えていないよ、と言ってますが、芽衣夏さんは、どうしても気になる。そこで、真剣に何かを見つめて考えているようなふーちゃんと同じ目線で、そこを見えるのですが、何も無い。ますます気になりますね。不思議だ、不思議だと思いがながら、ふーちゃんに聞いたら、「ニャー」と答えた。とても面白いですね。その時、芽衣夏さんは、人間の目には見えないものが、世の中にはもっとたくさんあるんだと知ったのかもしれないね。世界が大きく広がりましたね。

## 優秀賞

### 世界は常に動いている

結城中学校 三年 坪井 瑛大

窓の外をみてみる  
何にもないようにみえて  
空では鳥が一生懸命働いている  
何にもないようにみえて  
海の中では魚たちが命をつなぐために泳いでいる  
何にもないようにみえて  
街では人々が子供や愛する人のため、働いている  
何にもないようにみえて  
地面ではバッタが草の上ではねている  
何にもないようにみえて  
多くの命が生まれている  
何にもないようにみえて  
多くの命が消えていって  
何にもないようにみえて  
海の向こうでは銃が人を殺している  
何にもないようにみえて  
幸せをつかんでいる人がいる  
世界は常に動いている  
良い方に動かすかも  
悪い方に動かすかも  
わたしたち次第だ

#### 短評 優秀賞「世界は常に動いている」

瑛大さんはとても大事なことに気づきましたね。毎日、おだやかで平和な生活を送っていると、重大なことは何もないようにみえますが、実際は、生き物や人々は一生懸命に働き、命が生まれ、消え、戦争で殺されている。それは目には見えない所で起こっているのですが、それを見る目が想像力なのですね。だから想像力を働かせて、良い方向にも、悪い方向にも常に動いている世界を見て、良い方向に向かうように考えようと主張しています。本当に大切なことですね。

## 優秀賞

### 生き物

結城第二高等学校 一年 落合 眞菜美

生き物が平等なのは一つ、それは死。

死はとても悲しい事だが、いずれは別れが来てしまう。

そう、いずれは私も。

だから、私は生き物が平等なのは死と考えた。

生き物は、いつ・どこで・何が起るかわからない。

今、この詩を作っている時も、世界のどこかで

泣き声が聞こえているだろう。

その泣き声は

新しい生命が誕生して嬉しい涙

離れていく生命がある悲しい涙

この地球の生き物は、最後は一緒。

今が悲しくて辛くても生きていくように、

笑顔で楽しいと思える日がきつとくる。

今、生きている全人類生きている事を大切にしたい。

そして今を楽しみ人生にしたい。

### 短評 「優秀賞」 「生き物」

高校生になると、身近な生活の出来事を見つめながら、それを越え  
たもつと広い世界、さらには人生論にまで視野が広がっていきますね。  
すばらしいことです。この詩も、何が起きるか分からない現実の中で、  
世界中の人々は、喜び、悲しみ、怒りながら一生懸命生きている。そ  
の生き方、暮らし方はさまざまであっても、死はだれにも平等に訪れ  
る。だから今の人生を、生きている現在を大切にしていきたい。これ  
が、詩の中心的なテーマで、深く考えさせられる問題ですね。

優等賞

だんじふし だんじふし

結城小学校 一年 若林 愛莉

みつけた みつけた だんじふし  
うえきばちのしたで かくれんぼ  
ちいさいあかちゃんみつけたよ

もぎもぎ もぎもぎ だんじふし  
しのひらのうえきばちのうへ  
くちゅうたいけい おうえきばち

しんしん しんしん だんじふし  
くちゅうえきとよきもぎもぎ  
まじゅうねたたりしんじふし  
はっぴのおぶとんかけるから  
おひるねしつも だんじふし

やじやじ やじやじ だんじふし  
きゅうはなをきしゅうかみ  
しんじふし  
おちびのうらたばち  
あやがおのしんじふし  
だんじふし

優等賞

あそびあそび

江川北小学校 一年 岩崎 匠

うちのおじいちゃん  
あそびあそび  
うたがうたが うたがうた

あそびあそび  
うちのおじいちゃん  
あそびあそび  
だんじふし

あそびあそびあそびあそび  
わかってあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそび

うしろ

結城西小学校 一年 榎本 匠馬

じーっとみていないとみつけられない  
 かくれんぼじょうずなぞじょうず。  
 しかまえやうとぶもっせ、  
 めるめるこつこつ、こげじょうず  
 すーとすぼやくおやぎもじょうず  
 やつとじつかまえたいえにもちかえら  
 「じんにちは。きょうからゆうじょう」  
 ぼくのゆびゆびのおおきなだったのこ  
 いまはこのひらひらのおおきなになった  
 かぞへになったのはらわたのうめ  
 ぼくはつむらになつたや  
 どじょうは10なんこきらだるま  
 おかあさんがおしえてくれた。  
 「じんにちは。じつからまやうじょうむ  
 ぼくは、きみがだいすきだよ。

フリンク

上山川小学校 二年 須藤 楓

ぐんぐんと力いっぱいいでみる  
 シェットコースターみたい  
 とおくまで見えるから  
 そこまでとびたい気もちになる  
 いきおいにのって空を見あげてみる  
 かみなりぐもが見える  
 赤と白のグライダーがとんでいる  
 目の前をとんぼがよじめる  
 ミーンミーンジーシー  
 なんびきのせみがいるんだろう  
 フリンクのいきおいがなくなってきた  
 ゆーらゆーらゆーら  
 風がやわつこ  
 こんどはゆりかごみたいだ

優良賞

わたしのかぞくのこえびちゃん

山川小学校 二年 猪野瀬 心彩

夏休みに、しんせきのおにいちゃんが  
ようすいろうでえびをとってくれたよ。

ばあちゃんが「ぬまえびだよ」

とおしえてくれたよ。

ぜんぶで七ひきいて、おかあさんえびもい  
たよ。おなかにタマゴをもってたよ。

なん日かたつとタマゴから赤ちゃんが生ま  
れてたよ。とつてもとつてもちっちゃくて  
さがすのがたいへんだったよ。

ふわふわスイーって一ぴき二ひき

ふわふわスイーってみんなでおよいで

わたしもこんなふうにおよぎたいな。

えさをたくさんたべて早く大きくなってね。  
わたしのかぞくのなかまいいだね。

優良賞

ちょっと大人になったぼく

結城西小学校 二年 小篠 圭吾

「かんきせんの音がうるさいな。」

ぼくは、ねむれなかった。

今日、ぼくは、はじめて、ばあちゃんのいえに  
とまっている。

となりで寝ているのは、いとこのひろとくん。

いつもいっしょに寝ているパパもママもない。

いつもとちがうおふとん。うちのにおいとすこ  
しちがうな。

いつもとちがう天じょう。「あれ、天じょうの

すみに黒っぽいものが見えるけど、おぼけじゃ  
ないよね。」

ぼくはバサツとわざと大きな音を立ててタオル

ケットをすっぽりとかぶった。

さい近、パパはぼくのことを「いつまでたつて

も赤ちゃんみたい。」って言うんだ。ママは

「赤ちゃんでもいいよ。」って言うけど。それに

ついては、ちょっとくやししいから、ぼくは今日  
のおとまりをせいこうさせることにした。

なるべくたのしいことを考えてギョツと目をつ  
ぶった。

ライトにてらされたみたいになったから目をあ

けたら、あさだった。

ばあちゃんがだいどころであさごはんをつくっ

ていた。

ぼくは大きなこえで「おはよう」と言った。

きのうのぼくより、なんだかすこし大きくなっ

たようなぼくがいた。



優良賞

せみのぬけがら

城西小学校 二年 笠島 逞充

公園の木のねもとにポツポツとたくさんのおな  
あな

そっと近づいてのぞいてみる

「あ、せみのぬけがらー!」

とび立ってあなのまわりにころがるもの

あなからあわててとび出したのか、体があ

んぶん土の中にうまっているもの

長いあいだ土の中で今か今かとちじょうへ

とび出すことをまちわびてきたのだ

よう虫のときは土の中にすむ生きものにな

べられたり、ちじょうに出てからも鳥にたべ

られたりする

それでもせい虫になることをゆめ見て

土の中にはだれも知ることのないもう一つ

のせかいが広がっているのかもしれない

せみのぬけがらを手にとり、ゆっくりとた

いようのひにかざしてみる

なんてきれいなあめ色なんだろう

このおおしくのこされたすがたは、きつと

たくさんおのしれんに立ちむかったしじょうりの

あかし。

優良賞

スーパーマーケット

絹川小学校 三年 大久保 来夢

スー

ドアがあいた

ぼくの大すきなスーパーマーケット

ソーダガム

パピコアイス

サイダー

きゅうり

もつやきそば

あま口のレトルトカレー

わくわくがとまらない

あっちからも

こっちからも

ぼくをよんでいる声がする

ごめんね

今日はこれだけ

またあしたくるね

## 優良賞

### 自ぜんのあなあけパンチ

江川南小学校 三年 鈴木 理央

二年生のころ

畑仕事してたら見つけたよ

あながあいた葉っぱ

それは見ただけでそのままにしておいたけど

その葉っぱが何に使えそうか考えてみた

ハンドメイド作家だったらアクセにするか

もしれない

下をよく見てない人はふんできてるかもしれない

虫とのがすきな子なら葉っぱを捨てて虫の

ベッドにするかもしれない

葉っぱにあながあいているだけでほかのふ

つこの葉っぱと同じと思う人もいるはず

そもそもこのあなは、何があけたのか

虫があけたかもしれない

ふまれてあいたかもしれない

あいた理由は何なのかは分からない

でも、物を使わずに自ぜんの何かであいた

のはたしかだ

きれいなあなを葉っぱにあけた自ぜんはあ

な開けパンチだ

自ぜんって、すじこ。

## 優良賞

### 大きなアリ

結城小学校 四年 福島 花瑛

庭で見つけた大きなアリ

お父さんに聞いたら

女王アリだって。

小さな入れ物に

ぬれたスポンジと砂とう水、

そっとアリを入れ、何日かしたら

白くて小さなたまごを生んだ。

私がおそきこむと

大きなアリはたまごをかかえて守ってる。

また何日かしたら

モソモソ小さな虫に

そして、何日も何日もたつて

やっと小さなアリになったよ。

少しとうめいで米つぶみたい。

生まれたばかりなのにもう働いている。

「えらいなあ」

うちの猫

絹川小学校 四年 濱野 龍之介

うちの猫は、お墓まいりの帰りにいた  
神社の下のすき間にはさまっているところ  
を助けてにがした

その日の夜、雨の中猫の音が聞こえた  
外に出てみると、あの猫がいた

その日は保護のつもりだったけど

いつのまにか家族になった

イタズラ好きでよくあばれてる

小さい虫を追いかけたり、おもちゃを使って

遊んでる

高いところに登るけどお尻が丸なくなるちよっ

とドジな猫

家に帰ると鳴いて呼び

誰かがねると背中このる

ゴロゴロ言いながら足によってくる

そんな大切なうちの猫

ぼくとエレクトーン

城南小学校 五年 板橋 朋生

ぼくはエレクトーンが好き  
白と黒のけんばんは

見た目は全部同じだけど

一つ一つ全部ちがう音がでる

それぞれの音が重なると

美しいメロディーになる

メロディーは

キラキラ青空のように明るく

フワッと白い雲のようにやさしく

ゴロゴロと雷のようにはげしく

シトシト雨のようにはげしく

奏でる音は、無限です

ぼくはエレクトーンが好き

上手になりたい

がんばれ、ぼく

上手になるまであきらめない

いつか

自分の音楽を奏でたい

ぼくの弾く曲が

たくさんの人たちに

風にのって届くように

たくさんの人たちの気持ち

が音楽で元気になれるように

ぼくの音楽をひびかせたい

## 優良賞

### 桜の木の一年

結城西小学校 五年 高杉 琉斗

ピンク色の桜の花が咲き始める春  
うすいピンク色の桜、濃いピンク色の桜  
せつかく咲いてもずっとも見られないけど  
桜の花びらがヒラヒラと散るのもキレイ  
だけれどもったいない

キレイな花が散ると葉っぱが出てくる

緑色がとてもキレイな葉っぱ

毛虫がおいしくて食べちゃう

葉っぱがかわいそうと思うけど毛虫も

生き物だからごはんは食べるよね

ちょっと複雑な夏の桜の葉っぱ

春とは違う、黄色やオレンジ色で

木が飾れる

夏に頑張った緑色の葉っぱ

気温は寒くなるけど葉っぱを見ると

ぽかぽかしてくるね

黄色やオレンジの葉っぱがいなくなる

さびしくなるね

寒くなると氷や雪

それでもじっと耐える強い桜の木

また春になったらきれいな花を

咲かせてね。

## 優良賞

### 空の顔

城西小学校 五年 工藤 愛梨

畑でしゅうかくしていると

オレンジ色のきれいなゆうやけがみえる

だれかに見せたくなって

お母さんと弟に声をかけた

「もっとよくみえるところまで行ってみよう」

三人で学校の正門まで歩いた

いつも見ている校舎がオレンジ色に光っている

ゆうやけを見ていん石のようだと言った

お母さんは虹みたいで別の世界につながって

いそう、と言った

私はみかん色でおいしそうな空だと思った

次の日、また空をみてみたら

天使のはしご（光のすじ）がみえた

別の日は、うすく虹がかかっていた

またみんなをさそって空を見に行きたくなって

きた

またさそってみよう

あしたの空はどんな顔を見せてくれるかな

## 優良賞

### お母さんのオムライス

城西小学校 五年 斎藤 百合花

バターで炒めて甘くなったたまねぎ  
しょっぱいベーコン

ケチャップで赤く染められていく白いご飯  
(ん〜いい香り。)

わくわくが止まらない

卵が、じゅーっとフライパンに流れていく

たまごが丸くなって、お月様みたい

お月様に、真っ赤なご飯がつつまれる

お母さんのかくし味

チーズの秘密兵器が投入される

トントん、くるっと

ご飯がかくれんぼ

ケチャップで、私の名前を書いている

テンションが上がる瞬間だ

「はい、どうぞ。」

待ってました！私のオムライス

「いただきます。」手をあわせる

ふわふわたまごの中から、とろとろチーズ

ホカホカのケチャップごはん

愛情たっぷりつまったごはん

お母さんは、「給料口前の節約料理。」って

笑っているけど

大好きなおムライス

また作ってね

## 優良賞

### 少く前のじじ

江川北小学校 六年 小川 真一

今のほんの少し前

世界が動いている

どこかで赤ちゃんが生まれ

どこかで誰かが亡くなる

誰かが結婚する

誰かが成人になる

どこかで条約が結ばれる

エネルギーがつくられる

どこかの森林が消える

そのたびに木が植えられる

みんなが何かを考える

何もしないとよくない方向へ動く

だからそれを止めるために

みんなが何かを

いつも考え続けている

## 優良賞

### 昔と今の農業

江川南小学校 六年 中山 清司

ぼくの家は昔から続く農業  
祖父がいつも昔話をする  
なぜかと思ったら、  
昔は、畑を耕すのに  
クワや牛などを使い  
畑の葉物の、消毒は  
機械を使用し  
人が畑に出てやっていた  
収穫は  
一人一人手作業  
大変だったと思う  
今は  
畑をたがやす時は  
トラクターを使用  
畑の葉物の消毒する時は  
消毒専用トラクターや機械を使用  
人は畑に出ず  
機械に乗ってやっている  
収穫の時はまだ昔と同じ  
手作業だけど  
一部機械作業もある  
今と昔をくらべると  
いろいろな所でもある  
機械にかわったけれど  
また手作業の所もある  
大変だけれども  
この伝統を忘れない

## 優良賞

### 「県大会でホームランを打ったぼく」

結城西小学校 六年 根本 悠汰

「カッキーン!!」  
ぼくはバットに力を込めて、ボールを打った。  
そのボールは、ヒューンと高く遠くへ上がり、  
ライトとセンターの間を通り抜けた。  
「ハア、ハア、ハア」全力で走るぼく。  
一気に盛り上がる球場。  
「走れ走れ!!」「回れ回れ!!」チームメイト、  
コーチ、監督とくが立ち上がり必死にぼくに言う。  
「絶対ホームに帰ってやる!!」ぼくは、力をふ  
りしぼって走り、ホームに帰る事が出来た。  
心臓がドクドクする音が聞こえる。  
みんながぼくにかき寄り、一緒に喜んでくれる。  
「よく出来ました!!」「ほめてくれる監督。」  
ぼくが初ホームランを打った試合は、チームメ  
イト達とぼくの力で、勝利することが出来た。  
このドキドキした試合を、ぼくは一生忘れない。

優良賞

曾祖父

城西小学校 六年 石川 凜

大正生まれの じいさんは  
ガンコだ  
口笛が ひびく  
一升瓶を 片手で持ち  
うす汚れたコップに  
酒を こぼしつぐ  
穴があいた服きて  
浪曲を唄い  
ときどき 照れる  
日に焼けた肌に  
古い 麦わらぼうし  
トゲが入った 手のひら  
たばこの火は 指でもみ消す  
硬くて頑丈な手  
歯は 一本も無いが  
足腰は丈夫だ  
口が悪いのも  
おもしろい

優良賞

無人島

結城中学校 一年 大黒 藍

この広い世界でなにができる  
この醜い  
暗い世界で  
春 桜の花びらうかんできた  
あたたかい光が世界を照らす  
僕は  
今  
なにをしているのだろう  
夏 まぶしいくらいに明るい  
太陽が笑っている  
僕は  
今  
秋 世界に色が満ちる  
木の実の香りが鼻いっぱい広がる  
僕は  
冬 白い光る鏡がふってきた  
楽しい声が聞こえる  
僕は  
捨てられた ステラレタ  
助けて タスケテ  
僕はかわいい人形です——  
明るい世界で  
この楽しい  
この広い世界でなにができた

優良賞

我慢の大きさ

結城南中学校 一年 山中 結心

「不要不急の外出をひかえて下さい」  
この言葉を何度耳にしただろう…  
中学生になり初めての夏休み  
お祭り 花火 バーベキュー  
新しくできた友達と  
たくさんたくさん思い出を作るはずだった  
部活・勉強頑張る自分への  
ごほうび たくさんたくさん考えた  
でもそれは、叶わなかった  
この「今」の我慢はいつまで続くのだろう  
この「先」の我慢はいつまですればよいのか  
この「我慢」をしている人間が  
世界中にどれだけあふれているだろう  
我慢を気合いにおきかえ全世界で頑張る  
医療従事者の方をニュースで見た  
涙が自然とあふれた  
私の「今」の我慢がこんなにもこんなにも  
ちっぽけだと気付かされた  
夏は必ずまた来年やってくる  
再来年も必ずやってくる  
二〇二二の我慢が必ず未来のためになる  
そう信じて…  
今日も私は夏を特別なものにする

優良賞

感情はある

結城南中学校 一年 阿部 聖子

いつもと違う 景色  
辺り一面 薄暗い 朱色  
まさに 夕間暮れ  
近所から 美味な匂い  
だんだん 空が  
藍色に 近づき  
だんだん 本が読みにくくなっていく  
いつも以上に  
辺りが暗い  
怒っているのだろうか  
悲しいのだろうか  
感情があるのだろうか  
辺り一面 漆黒のような空  
星一つ 降ってこないように暗黒  
何かあったのだろうか  
感情はあるのだろうか  
恐ろしく 見たことのない空に  
いつも以上に  
辺りが暗い  
誰かがインクをぶちまけたのか  
夕から黒へと変わる  
不思議だ  
感情があると信じよう



## 優良賞

### 月の歯事情

結城中学校 二年 ファンティミ トウイン

まんまるだ

おもちみたいにぶにぶにしてそう

いっぱい食べたから大きく

なったのかな？

あ、ほっぺたが片方ない。

まるで食べすぎて虫歯ができたみたい

抜いたのかな？

うーん。虫歯悪化したのかな

この間よりもほっぺたがなくなってる

だいじょうぶかな？

どこに行ったの？

どこにもいない…

あ、おかえり

虫歯なおしてきたんだね

今度は食べすぎないように！

## 優良賞

### 夢

結城東中学校 二年 秋元 萌花

本は、手紙だと思う

手紙は、勇気や悲しみをあたえる。

本は、作者からの長い長い手紙

本は、人生だと思う。

人生は、ワクワクかドキドキがある。

本は、作者の人生

私の書く手紙は、どんなものだろうか。

勇気や悲しみをあたえるものだろうか。

私の書く長い長い手紙は、読者へ向けただ

んな手紙だろうか。

私の書く人生はどんなものだろうか。

私の書く人生はどんなもの

ワクワクやドキドキを表したものだろうか。

本には、私の「夢」がまつている。

きつと、私は将来すてきな、人生の長い長

い手紙をかいているだろう。

優良賞

お姉ちゃん

結城中学校 三年 龍道 妃菜

「お姉ちゃんでしょ？」  
その言葉を聞くと悲しくなる  
「お姉ちゃん」って何だろう  
弟にムカついて私はお母さんに言った  
それを聞いた弟は私に当たった  
私は今すぐやり返して泣き叫びたかった  
けど我慢した  
お姉ちゃんだから  
弟が赤ちゃんの頃は  
「お姉ちゃんになったね」  
と言われてうれしかった  
だけでも大きくなった弟  
お姉ちゃんと言われてもあまりうれしくない  
お母さんが仕事の時は  
お皿ごはんを作り  
お皿を洗い  
洗濯物をこむ  
お姉ちゃんだから  
「お姉ちゃん」って何だろう  
お姉ちゃんだけだとなんでこんなに頑張らなく  
ちゃいけないの？  
お姉ちゃんだけだとなんで我慢しなきゃいけないの？  
「お姉ちゃん」それはきつと神様が与えてく  
れた試練だ  
いつかお姉ちゃんに良かったと思える日まで  
「お姉ちゃん」として頑張りたい

優良賞

静寂

結城東中学校 三年 石毛 陽和

家族と山登りに出かけた  
前日に雨が降っていたらしく  
足場がぐちゃぐちゃになっていた  
とても急な斜面を登り  
とても急な階段を上った  
大きな水たまりをよけて  
最後の階段を上った  
今までと違い、開けた場所に出た  
少し歩いて上の方まで行くと  
今までに感じたことのない  
静寂に包まれた  
静かな教室とも違い  
人気のない夜の街中とも違い、  
風の音、足音だけが響き、  
それ以外は聞こえない  
そんな静けさだった  
本当の「静寂」を  
知ることができた気がした

## 優良賞

君

結城東中学校 三年 服部 希乃花

君はどこに消えたのか  
家に行ってもいないと親  
君はどこに消えたのか  
学校行ってもいないと先生  
君はどこに消えたのか  
公園行ってもいないと猫  
君はどこに消えたのか  
海へ行ってもいないと魚  
君はどこに消えたのか  
人魚のように泡となって消えたのか  
君はどこに消えたのか  
空を見上げてつぶやいた  
空には夕日があるだけだ  
君はどこに消えたのか  
地面見つめてつぶやいた  
君はようやく見つかった  
君は自分の側にずっといた  
君の表情は黒くて分からないや

## 優良賞

### 真っ黒な部屋

結城第一高等学校 一年 植竹 陽菜

目覚めると私は真っ白な部屋にいた  
私はさっき布団に入り寝たはずなのに  
部屋を見渡してみた そこには入口も出口も  
何もかもがないただの真っ白な部屋だった  
でも私はここから抜け出す方法を知っていた  
右にある壁をまた右に行く  
そこに手を当てた  
するとどこからともなく道が現れた  
しばらく進むと真っ黒な部屋にでた  
ああ 閉じ込められた  
さっきまで確かにあっただろう道はどこにも  
なかった  
私は間違えてしまったんだろう  
真っ黒な部屋で何も考えられなくなっていた  
ひかりがほしい  
ふと眩しさを感じ目を開ける  
それはスマホの通知だった  
そうだ私はもう昔の私ではない  
晴れ晴れとした気分です真っ白な部屋の壁に手  
を当てる  
眩しいはずの光がなぜだか心地いい  
私は走りだす

## 優豆賞

### 朝の声

結城第二高等学校 二年 指首 雄太

シリリリン シリリリン

目覚まし時計が鳴っている

「起きろ 起きろ」と鳴っている

ケーン ケーン

外でキジが鳴いている

「起きろ 起きろ」と鳴っている

サーッ サーッ

カーテンを開ける音がする

「起きろ 起きろ」と母の音がする

シリリリン シリリリン

ケーン ケーン

母の不機嫌な声

「起きろ 起きろ」とまだ言っている

もう わかったから

もう 言わなくていいから

今 起きるから

## 優豆賞

### 気づき

鬼怒商業高等学校 三年 青柳 彩乃

ある日の夕方、下校中友達の悲鳴がした。

俺は、悲鳴がした方へ行くと

そこには、変わりはてた友達の姿が。

俺はその友達の姿を見て

言葉を失い静かに泣いた。

その時、俺はある事に気がついた。

七不思議を解けば友達を救えることに。

俺は七不思議を解いている途中

ふと不安になった。

「俺は本当に友達を救えるのか」

とその言葉をにこした。

俺は、七不思議を解き終わった後、

急いで友達の元へ走った瞬間

目が覚めた。

俺は気づいた。

今までのことが全て夢だったという「気づき」。

ふと学校を思い出すと

なつかしくなるのはなぜだろう。

## 優良賞

### 感じたものが

鬼怒商業高等学校 三年 阿久井 美月

今年最後のプール

暑い更衣室の中で水着にきがえ

強い日差しの下で準備運動

冷たいシャワーは毎回びっくりする

水の中は少し怖い

大きく息を吐いて、力いっぱい息を吸って

いきおいよく顔を水の中に入れる

水の中はすごく好きだ

水の中は暑くない

強い日差しはやわらかい光になって見える

静かで綺麗な水の中

水の中は透明だ

透明だからこそ見えない物が観えてくるの

かもしれない

怖いと感じても見えるものはそうじゃない  
のかもしれない。

## —新川和江氏について—

- 昭和 4 年（1929） 茨城県結城郡絹川村（現結城市）小森に生まれる。
- 昭和 19 年（1944） 詩人の西条八十氏に師事。
- 昭和 28 年（1953） 第一詩集『睡り椅子』を出版。代表的な詩集に『ローマの秋・その他』、『ひきわり麦抄』、『星のおしごと』等多数。
- 昭和 35 年（1960） 『季節の花詩集』で小学館文学賞受賞。
- 昭和 40 年（1965） 『ローマの秋・その他』で室生犀星詩人賞受賞。
- 昭和 56 年（1981） 日本現代詩人会理事長就任（～1982）。
- 昭和 58 年（1983） 女流詩人による季刊詩誌、「現代詩う・メール」を創刊。  
日本現代詩人会会長就任（～1984）。
- 昭和 59 年（1984） 結城市民栄誉賞受賞。「結城市民の歌」作詞。
- 昭和 62 年（1987） 『ひきわり麦抄』で現代詩人賞受賞。
- 平成 4 年（1992） 『星のおしごと』で日本童謡賞受賞。
- 平成 6 年（1994） 『潮の庭から』で丸山豊記念現代詩賞受賞。
- 平成 10 年（1998） 児童文化功労賞受賞。『けさの陽に』で詩歌文学館賞受賞。
- 平成 11 年（1999） 『はたはたと頁がめくれ…』をはじめとする全業績に藤村記念  
歷程賞受賞。
- 平成 12 年（2000） 勲四等瑞宝章叙勲。『いつもどこかで』で産経児童出版文化賞  
JR賞受賞。
- 平成 13 年（2001） 結城市名誉市民となる。
- 平成 16 年（2004） ゆうき図書館名誉館長就任。
- 平成 19 年（2007） 『記憶する水』で現代詩花椿賞受賞。
- 平成 20 年（2008） 『記憶する水』で丸山薫賞受賞。  
結城市民情報センター及びゆうき図書館開館 5 周年記念事業  
として「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」を創設。
- 平成 22 年（2010） 日本現代詩人会名誉会員。
- 平成 24 年（2012） 石像「野の花」を寄贈。結城紬大使就任。

## —新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～について—

**【目的】** 結城市出身の詩人新川和江氏による「詩」の創作活動の指導を通じて、結城市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に寄与する。

**【募集作品】** 自由題の未発表詩

**【応募資格】** 結城市在住、在学の小・中・高校生

**【選考】** 選考委員長 新川和江（第1回～第10回）  
武子和幸（第11回～）  
（一社）日本詩人クラブ元会長  
茨城県芸術祭文学部門実行委員長  
選考委員 関 和代・山中 和江・吉田 峰代（センダンの木の集い）

### 【経過】

- 平成16年度（2004） 新川和江選「未来をひらく詩のコンクール」開催  
（結城市制50周年記念及びゆうき図書館開館記念事業）  
●募集作品：「<sup>わたくし</sup>私 が大人になったら」・「<sup>わたくし</sup>私 のふるさと」のいずれかを題材とする  
●応募資格：結城市及び隣接市町村在住の小・中・高校生  
●最優秀賞：「わたしのふるさと」  
児矢野 千穂（三和町立大和田小学校2年）
- 平成20年度（2008） 第1回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
（結城市民情報センター・ゆうき図書館開館5周年記念事業）  
●新川和江賞：「あまいみをならしてね」 海老澤 匡希（山川小学校2年）
- 平成21年度（2009） 第2回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「夏」 向田 浩哉（結城小学校5年）
- 平成22年度（2010） 第3回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「ランドセル」 野呂瀬 早紀（結城小学校1年）
- 平成23年度（2011） 第4回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「石」 藤野 里菜（結城東中学校2年）

- 平成 24 年度（2012） 第 5 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「日記詩」<sup>にっきうた</sup> 海老澤 朋代（結城南中学校 1 年）
- 平成 24 年度（2012） 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」5 周年記念誌発行
- 平成 25 年度（2013） 第 6 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「変わらない日々」 宮田 和佳奈（結城東中学校 2 年）
- 平成 26 年度（2014） 第 7 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「やさい」 永田 美穂（山川小学校 2 年）
- 平成 27 年度（2015） 第 8 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「風のふで」 山田 明依（城南小学校 3 年）
- 平成 28 年度（2016） 第 9 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「河原の石」 浅利 直弥（結城小学校 6 年）
- 平成 29 年度（2017） 第 10 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「伝統の田植え」 須藤 啓太（城西小学校 5 年）
- 平成 29 年度（2017） 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」10 周年記念誌発行
- 平成 30 年度（2018） 第 11 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「あっ来た。ヤモリ」 永井 心海（山川小学校 2 年）
- 令和 元 年度（2019） 第 12 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「おばあちゃん家」 湯本 有紗（結城南中学校 2 年）
- 令和 2 年度（2020） 第 13 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「いいかおり」 坂本 七海（結城第二高等学校 1 年）
- 令和 3 年度（2021） 第 14 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催  
●新川和江賞：「おばあちゃんの庭」 登坂 悠生（結城西小学校 6 年）



# 花の名

新川 和江

もも

ゆきやなぎ

みつばつじー

花の名をいうときは

この春やっど

ひらがなを覚おぼえたちいさな妹が

やわらかな鉛筆えんぴつで

一字書いては

うれしげにじりじりするよひに

わたしは発音はつおんするので

やはり ひらがなで

えにしだ

こぶし はなみずき

そくて わんたん...

